

事務事業 No./名称	■サービス部門 こども-11 私立保育所助成事業				ザイムスコード及び個別事業名		
	□支援部門				69	私立保育所助成事業	
主管課	保育課	関連課	こどもみらい課		790	私立保育所助成事業	
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	地域の子育て支援を行なう 待機児童0人						
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考			
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日(住民基本台帳)			
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯	・対象者数=各年3月1日現在 私立入所児童数			
運営資源 状況	決算値	411,191千円	349,042千円				
	(国・県)	114,608千円	78,088千円				
	(負担金等)						
	(一般財源)	296,583千円	270,954千円				
	人員配置数	1.0人	1.0人				
	人件費	8,968千円	9,071千円				
	協働の パートナー						
事務事業 運営経費	総事業費	420,159千円	358,113千円	指標と評価			
	市民1人当りの経費	2,378円	2,029円	指標	待機児童数(各年度3月1日現在・私立保育園分)		
	対象者1人当りの経費	401,298円	413,525円	評価	○		
				◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退			
ベンチマーク (県内外自治体や民間 団体との比較値)	団体名						
創意・工夫・課題等 改善状況	課題・問題点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 待機児童解消を目指しているが、むしろ増加傾向にある。更なる工夫、取り組みが必要。					
	創意・工夫・課題等の改善点 21年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 待機児童対策として定員を超えた弾力的な運用による入所児童の受入れ。保育所最低基準を遵守しつつ、保育士の弾力的配置等により、私立保育所定員合計932人のところ、平成21年度3月時点では1,047人の入所があった。認定こども園では定員の増や分園の設置を実施した。あわせて私立保育所梶原分園の設置に向けた準備を進めた。また、本事業により私立保育所の経営安定化、健全化を図ることができた。					
	未解決の課題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 待機児童の解消					
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 無認可保育所の認可化を推進することで保育の質の向上を図る。 待機児童の解消に向けて、私立保育所の定員増や分園設置に取り組んでいく。私立保育所に対して運営費の補助を行うことにより、経営の安定化、健全化を図ることができているが、補助制度の継続的な見直しを図り、効率的な運営支援による保育事業の推進を図る必要がある。					
一次評価(課長評価)				二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了							
評価結果	改善の必要性				評価結果	改善の必要性	
B	有	事業費の増は、認定こども園の定員増や分園設置など、主に受入れ児童数の増加に伴うものなのでやむを得ないと判断しているが、国・県の補助制度の動向を見ながら、補助制度の継続的な見直しを行うことにより、より効率的な支援を目指す必要がある。			B	有	無認可保育所の認可化を図るなど、事業費の削減を進めていくこと。今後は補助制度の内容の精査、適正化を進め、効率的な子育て支援施策の充実を図りたい。
課長名		保育課長 進藤 勝			部長・部長名		こどもみらい部 佐藤 尚之